

05/27 - 06/02

大阪ヘルスケアパビリオン  
「リボンチャレンジ」



得意のシュリンク技術で  
容器という新たな用途を  
次世代に向けて訴求

## シュリンクラベルや各種製袋製品を自社工場で一貫生産

1930年に晒木綿業（さらしもめん）で創業。時代を経て綿織物産業が衰退するなかで化学製品にシフトし今日では大手飲料メーカーや食品メーカーの製品パッケージを多く手がけています。なかでも日新シール工業株式会社が強みを発揮するのはペットボトルのシュリンクラベルや、詰め替え用容器などでよく見かける口栓（こうせん）のついたパッケージで、これらの製品を全て自社工場内で一貫生産している点もまた大きな優位性となっています。

## リサイクル性の高い「組み立て型シュリンク容器」を新たに開発

大阪・関西万博では、得意のシュリンクラベルの技術を活かした容器の提案を行います。シュリンクラベルは従来、ペットボトルのような容器の上に施す二次包装ですが、骨組みの上からシュリンクすることで容器としての用途を新たに開発するもので、一般の来場者、特に子どもたちに、熱を加えると形状を変えるシュリンク技術に興味を持ってもらえるような展示を計画しています。実際の展開としては、例えば夏祭りなどから持ち帰ってきた金魚などを入れる簡易な水槽や、子どもたちの自由研究セットなどが考えられ不要になれば資源ゴミとして簡単に処分ができることがメリットです。将来的には、骨組みに使用する素材を植物由来のでんぷんと生分解性樹脂を主体とし、シュリンクフィルムにもバイオマス素材であるポリ乳酸を主体とする素材を使用することで、環境にやさしい製品となります。



組み立て型シュリンク容器

## 包装材のモノマテリアル化にも挑戦

さらに、もう一点、パッケージメーカーとして万博で提案するのは、包装材のモノマテリアル化です。現在は異なる材質のPETフィルムとPEフィルムを貼り合わせていますが、同じ材質の特殊PEフィルムと高強度PEフィルムにすれば、リサイクル性が高められることを訴求します。この包装材のモノマテリアル化は、すでにヨーロッパなどではポリエチレンのフィルムを使っている取組がスタートしていますが、ポリエチレンのフィルムは伸びやすく、引っ張りながら印刷するとき柄がずれやすいのが難点です。現在、フィルムメーカーに伸びにくいポリエチレンフィルムの開発を委託しており、同社の技術力とあわせて実現を目指しています。



長尺ロールのフィルムを切断するスリッター

### 企業概要

所在地 〒587-0042  
堺市美原区木材通4丁目2-11  
TEL 072-362-5593  
設立年 1981年（創業は1930年）  
資本金 28,300万円  
従業員 230名

公式サイト さかشير



## 万博への出展が20年30年先でも意味を持ち続けることに期待



代表取締役専務  
堀川 孟 さん

大阪でせっかく万博が開催されるのなら、という軽いノリで出展を決めてからそれならば何を訴求しようかと考えた時に、やはり当社の一番の強みであるシュリンク技術を従来と全く異なる用途に活かせないかと思いました。万博というのはEXPO'70がそうであるように、これから20年30年経っても、そこへ出展したということが長く大きな意味を持ち続けます。社内のモチベーションアップにつながることはもちろん、採用活動においても大きなアピールになってくれることを期待しています。

### 事業内容

パッケージの開発・製造・販売

### 主な取引先（納入先）

食品メーカー、化粧品メーカー  
日用品メーカー

### 主な製品・サービス等

シュリンクラベル、パウチ  
各種製袋品